

区医だより

発行●浪速区医師会 編集●広報部

巻 頭 言

未来医療に向けて

久保田 泰弘

(えびす診療所 院長)

今から 20 数年前、堺筋日本橋でんでんタウンが盛況だった頃、運よく当時の職場がすぐ近くにあった私は、週 3、4 回はパソコン工房、ソフマップ、テクノランド等に通いつめました。そして DV カメラがまだ世に出ていない頃、PC に DVReX というアナログ信号をデジタル変換するボードを買ってきて取り付け、ビデオカメラで撮った映像とパソコンで製作したムービーとを合成し映像編集に没頭していました。ブルーバックで実写と、宇宙空間などを合成したりしていました。当時 3 DCG ソフトにも興味があり、LightWave 3 D や Shade 等を習ったりしていました。それで 1997 年にリュック・ベッソンの映画「フィフスエレメント」が世に出たとき、VFX のすごさを思い知らされました。特に映画で登場する異性人のオペラ歌姫「ディーヴァ」は圧巻でした。またスターウォーズやトランスフォーマの製作を手がけた ILM 社、XMEN のデジタルドメイン社に憧れていました。当時は、まだ日本の会社で今の邦画「シン・ゴジラ」白組のような技術は日本の会社にはなかったのです。将来は、そういう技術を使い、人の心の移り変わりなどを描ける映画製作が出来ればいいと企んでいます。

とまあ、無謀なことを考えていますが、私

自身、開業当初は医師会への積極的な参加などおよそ無縁なものだと思っていました。16 年前、開業時に徳田修会長の時代に浪速区医師会に入れていただき竹中会長時代に理事になり病診連携委員会を立ち上げて頂き、ブルーカードが開始され、佐久間会長時代に大阪府医師会、日本医師会とのパイプを作っていただき、そして今年 6 月からは澤井会長の下で「A ケアカード」が始まります。浪速区で、このような事業に関われることを心より感謝しております。

最近、私が興味を持っている ICT と A ケアカードの思い入れに関して少し加筆してみることにしました。

#1:singularity と AI

米グーグルの研究者カーツワイルによれば、2045 年に人工知能が人間の頭脳を超えていく点シンギュラリティ (特異点) が来るそうです。映画「ターミネーター」のような世界になってしまうとも思えませんが、映画「トランセンデンス」のように人工知能を人間が脅威に感じ、結局は破壊しなければならない結末になるかもしれません。すでにビルゲイツやホーキング博士は、将来の AI について



警鐘を鳴らしています。本来、医療 AI が目指すものは人間の知性にとって代わるものではなく、人間の知性を拡張させるものであるべきです。あくまで人間の生活の質を向上させる使い方に留めるべきだと思います。日本でも、最近では AI やロボットの研究が旺盛になってきました。

PEZYcomputing 社 (日本) の齋藤元章氏 (元東大の放射線医) は、小脳機能を持つ小型プロセッサを開発中で、サイバーダイン社 (山海先生) のロボットスーツとの共同開発が成功すれば、あらゆる神経麻痺のリハビリが劇的に変化するかもしれません。ロボットスーツは ALS を初め 8 つの疾患で、今年から保険適応になっています。日本人の和の心が、人工知能を正しい方向に導いてくれる事を期待しましょう。

#2: 遠隔医療

日本遠隔医療学会 は、2011 年より発足していますが、今年になり本格的な利用者サービスが登場してきました。スマートフォンやモバイル、PC を使い初診は対面診療という条件はありますが、2 回目以降は患者の自宅にてネット画面で診察し処方箋や薬を届けてもらうというサービスがあります。メドレー社 のオンライン通院システム「clinics」の代表の医師の 1 人に会って来ましたが、在宅医療だけでなく、医師と患者のお互いの空いた時間を有効利用しようというもので、それが可能な疾患に限定利用しているようです。カード決済が条件で、電話再診の点数のみでは、やや敷居が高いですが、東京では増えつつあるようです。また、「MRT」のポケットドクターというサービスも始まり、こちらは初期診療の医療相談を 200 名以上の専門医の中から選び、利用者が実費 (2000 円) を払って相談するというものです。総合診療医の専門医版を、ネットで行うというものです。

将来は遠隔医療も今年 1 月の映画「オデッセイ」のように、火星と地球で指示通り行えば、通信で様々な事が行えるようになるかもしれません。

#3: ウエアラブル医療と IOT (アイオーティ)

IOT (internet of things) あらゆる端末や、IC チップ、センサーがネットで繋がれば、医療分野でも様々な活用が実現します。例えば、Vital Connect 社 のウエアラブルセンサー (ヘルスパッチ MD) は心電図、体温、心拍数、呼吸状態などの生体情報がワイヤレス通信で送られ専用ソフトで解析できます。また、活動量計としてのセンサーで、Apple Watch は言うまでもありませんが、少し低価格帯で Fitbit chargeHR が人気です。また、Aliph 社の Jaw bone UP など面白いのです。これらのツールは、やがて上記の遠隔医療とも繋がり、更には、IoT を通じて湿度や花粉等の情報と連動し、どういう過ごし方がいいか、AI が答えを出してくれる時代が到来します。映画「ルーシー」の様に、人間の脳が 100% 活用できれば、超能力は使えなくても創造を絶する事が可能となるでしょう。

#4: 次世代型保険医療システムと A ケアカード

日本の医療 ICT を推進する部署として、厚労省、総務省、経産省、そして内閣官房があります。総務省は毎年、情報通信白書などで、通信基盤を統制したり、ICT 化と効果の関係を調査したりしています。また、経産省は、医療 ICT のための業者のガイドラインを作り、IOT、ロボット、AI 等を取り扱いつつ、医療クラウドのあり方などを決めています。

そして厚労省は「医療情報の安全管理に関するガイドライン」を創設し、医療介護の「ICT 活用推進懇談会」で今後の方向性を示しています。内閣官房とともに「次世代型保険医療システム」を提案しています。それによると、3 つのパラダイムシフトが書かれており、1 つ目は、国民にとっての価値のある産み出すデータを抽出します。2 つ目は、一人ひとりを軸に疾病から介護保険まで生涯にわたり有益な情報を繋げます。そして 3 つ目は施設や医療機関で取り出されたデータを産官学が安全に活用できる情報として開きます。要約すると医療介護データは、取り出し、繋ぎ、活

用していくというものです。

今の日本で、医療ネットワークの大きな2つの流れがあります。上層部では、大型病院を中心とした電子カルテクラウドで、参加する開業医が病院の患者データを閲覧したり、予約したりするシステムです。また、下層部では、在宅患者等を対象に、多職種がSNS的に情報を連絡し合うものです。そこで、その両方の側面を持ち、しかも紙カルテの開業医でも参加可能である仕組みとして考え出されたのが、Aケアカードなのです。5つの職種（医師、薬剤師、歯科医師、看護師、介護支援専門員）が、それぞれ患者に必要な情報を入力して共有していくものです。介護からは生活レベルで何が困っているかという情報（ケアプラン含む）、医療からは、病気の状態、薬、検査情報などの医学情報が多職種で共有化できます。これらの情報は、災害時にも役立ちますし、将来、病院のデータと掛け合わせれば、さらに一人の患者の医療介護全情報を抽出する事が可能になり、上記の3つのパラダイムシフトを実現する強力なツールとなるのです。多職種の少しの手間が、ひとりの患者にとって、将来相当有益な情報集約となり得るのです。今後、このプロジェクトが、上手くいくかどうか、皆さん方の手間にかかっています。一人の患者さんのデータサマリーを、我々が保存していくことにより、結局患者にとって見守る多くの職種に役立つものとなるのです。医師ひとりが、1人の患者の健康福祉に全責任を持つという考え方には限界があり、患者サイドにしてみれば多職種、複数の医療機関で情報共有してもらう方が意義は大きいと考えています。故に皆さん是非、参加してください。

参考資料とサイト

サイバーダイネ社

<https://www.cyberdyne.jp/>

PEZY computing

<http://www.pezy.co.jp/>

遠隔医療

日本遠隔医療学会

<http://jtta.umin.jp/clinics>

<https://clinics.medley.life/>

<http://careerhack.en-japan.com/report/detail/577>

ポケットドクター

<https://www.pocketdoctor.jp/>

fitbit フィットビット

<http://www.fitbit.com/JP>

jawbone UP

<http://kanjitsu.com/jawbone/wearable>

①「人類を超える AI は日本から生まれる」

松田卓也（廣済堂新書）2015/11

②ビッグデータと人工知能 西垣通（中央新書）

2016/7

③IoT まるわかり 三菱総合研究所

（日本経済新聞出版社）2015/9

④医療ビッグデータがもたらす社会変革 中山健夫

（日経 BP 社）2014/5

⑤データサイエンティストが作る未来

スティーヴ・ロー 講談社 2016/5

⑥参考本 ICT を利用した「次世代型保険医療システム」の構築に向けて 2016/10

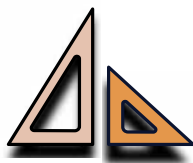
<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000140201.htm>

⑦A ケアカード

http://mfd.jiho.jp/pr/media/ict_20161110.pdf



理事会報告



◎平成 28 年度 11 月定例理事会

日 時 平成 28 年 11 月 25 日〈金〉

午後 8 時～9 時 50 分

場 所 浪速区医師会 会議室

協議事項

1. 日本橋小・恵美小・日東小の統合に伴う
学校医・産業医について 〈澤井会長〉
平成 29 年 4 月より日本橋中学校に 3 小
学校が統合し浪速小学校（19 学級、約
430 人）として設立される。これに伴い、
大阪市教育委員会より、3 名から 1 名に
選定するよう依頼があった。

協議の結果、担当理事が、現在就任し
ている校医と調整することとなった。

2. 次期介護認定審査委員について

〈澤井会長〉

浪速区保健福祉センターより件名につい
て、推薦依頼があった。

任期は、29 年 4 月 1 日～31 年 3 月 31 日
である。現在の審査委員に留任頂けるか
確認したところ、1 名辞退希望者（糸田
川先生）があったため、新たに就任頂け
る医師を協議願いたい。

協議の結果、久保田副会長が新たに
就任することとなった。

3. 新生児聴覚スクリーニング検査に関する
研修会（12 月 1 日〈木〉午後 2 時）への
出席について
標記研修会への出席者を決めたい。

協議の結果、中村理事が出席するこ

ととなった。

4. 職員の冬季賞与について 〈木田理事〉
例年どおりに決定。

5. 本会の年末年始の休館日（12 月 29 日
〈木〉～1 月 4 日〈水〉）について

〈山田理事〉

提案どおり了承（28 日 4 時仕事納め）。

6. その他

- (1) 毎日新聞健康コラム「ご近所のお医者さ
ん」への寄稿について
府医より標記コラムへの執筆依頼があっ
た。

協議の結果、中村理事が執筆すること
となった。

報告事項

1. 郡市区等医師会長協議会について

（11 月 25 日〈金〉） 〈澤井会長〉

次第は次のとおり。

▷開会

▷会長挨拶

▷連絡事項

- (1) 新生児聴覚スクリーニング検査に関す
る研修会開催の件
- (2) MR ワクチンにかかる緊急アンケート
報告の件
- (3) 新型インフルエンザ等対策特別措置法
に基づく特定接種に関する件
- (4) 支払基金大阪支部特定健診・特定保健
指導請求に関する注意喚起の件
- (5) 12 月度行事・会合日程の件

▷協議

▷閉会

（詳細 略）

2. 大阪市医師会連合会委員会について

（11 月 21 日〈月〉） 〈澤井会長〉

次第は次のとおり。

▷協議事項

-
- (1) 学術活動への補助金支給の件
(2) 平成 28 年度各区医師会分担金徴収に関する件
▷連絡事項
(1) 大阪市介護認定審査会委員推薦の件
(2) 大阪市障がい支援区分認定審査会委員推薦の件
(3) 大阪市介護予防健診（事業参加健診 11 月終了）の取扱いの件
(4) 大阪市重症心身障がい児医療コーディネータ事業における地域かかりつけ医の登録（依頼）の件
(5) 大阪府立特別支援学校学校医・産業医への意向確認の件
▷報告事項
(1) 第 55 回十四大都市医師会連絡協議会（10 月 22 日～10 月 23 日）報告の件
(2) 大阪市介護認定審査会役員会（10 月 27 日）報告の件
(3) 大阪府医師会保健医療センター運営委員会（10 月 31 日）報告の件
(4) 大阪府医療審議会（11 月 4 日）報告の件
(5) 大阪市社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会（11 月 11 日）報告の件
(詳細 略)
3. 在宅連携合同協議会について
(11 月 9 日〈水〉) <久保田副会長>
次第は次のとおり。
▷稼動してからの問題、気がついたことなど現状報告
▷システムのセキュリティについて
▷その他
(詳細 略)
4. 大阪府医師会医学会総会について
(11 月 13 日〈日〉) <久保田副会長>
「A ケアカードシステムについて」発表を行った。
(詳細 略)
5. 府医医療情報委員会について
(11 月 24 日〈水〉) <久保田副会長>
次第は次のとおり。
▷開会
▷報告事項
(1) 日医「医療情報システム協議会（2 月 11 日～12 日）」の出席者について
(2) 医療情報に関する講演会について
(3) その他
▷協議事項
(1) 諮問事項について「医療制度における ICT 化の問題点について」
(2) その他
▷次回日程
▷閉会
(詳細 略)
6. 河内長野市医師会学術講演会について
(11 月 19 日〈土〉) <久保田副会長>
次の内容で講演を行った。
場所 河内長野医師会
講演 「救急医療の現在とこれから—ブルーカードと今後の医療 ICT 連携—」
(詳細 略)
7. レクリエーションについて
(11 月 20 日〈日〉) <川田理事>
信楽／伊賀上野の旅（近江牛＆松茸すき焼き食べ放題）の日帰り旅行を開催した。出席者は、会員 13 名、家族 11 名、小学生 5 名、乳幼児 7 名の計 36 名であった。
(詳細 略)
8. 学術講演会について
(10 月 15 日〈土〉) <富永理事>
講演内容は次のとおり。
演題 慢性腰痛に関する話題
講師 日本赤十字社 大阪赤十字病院
整形外科・リハビリテーション科
部長 坂本 武志
出席者数 11 名
共催 シオノギ製薬株式会社
情報提供 サインバルタカプセルについて
(詳細 略)
-

9. 医師とケアマネジャーとの連絡会について
(11月12日〈土〉) <橋村理事>
本会からは9名の参加があった。

次第は次のとおり。

- ▷医師会参加先生のご紹介
- ▷浪速区医師会会長 澤井先生ごあいさつ
- ▷「医師とケアマネ連絡会 ～医療と介護が円滑な連携をするためには～」
 - ①パネルディスカッション
 - ②グループワーク
- ▷発表
- ▷総評

(詳細 略)

10. 浪速区在宅医療・介護連携推進会議について
(11月16日〈水〉) <橋村理事>
次第は次のとおり。

- ▷「在宅医療講演会（平成29年2月24日〈金〉）開催」について
- ▷在宅医療マップについて
- ▷その他

(詳細 略)

11. 健康展について
(10月29日〈土〉) <岡藤理事>
例年どおり、浪速区民センターで開催された。

詳細は次のとおり。

来場者数 316名（スタッフ含まず）
講演 岡藤理事「タバコの害について」
出務協力医師 9名（岡藤龍正、久保田泰弘、澤井貞子、徳田好勇、中村泰久、福永真也、本田秀明、山尾信吾、山田郁子）
健康相談数 47名

(詳細 略)

12. 社会保険講習会について
(11月24日〈木〉) <岡藤理事>

詳細は次のとおり。

演題 最近の指導・監査の動向と保険診療、医療における人権問題について
～審査上の取扱いを含めて～
講師 大阪府医師会理事 武本優次

出席者数 35名（医師15名 医療従事者20名）

(詳細 略)

13. 病診連携委員会について
(9月25日〈月〉) <入野理事>
次第は次のとおり。

- ▷第76回病診連携委員会報告について
- ▷地域包括ケアシステムにおいて、医療介護連携で現在取り入れていることおよび今後の展望について
- ▷本会の在宅医療連携の現状について
- ▷その他

(詳細 略)

14. 医療問題研究委員会について
(11月9日〈水〉) <福永理事>
次のテーマで意見交換を行った。

テーマ 「医療のFuturability ～再生医療がはたす役割～」

講師 大阪府医師会副会長 澤 芳樹

(詳細 略)

15. その他
なし。

次回理事会

平成28年12月16日〈金〉 午後8時～



11 月度 学術講演会報告

日 時 11 月 19 日(土) 午後 3 時
演 題 心筋梗塞の発症機序と予防の重要性について
講 師 国立病院機構大阪医療センター
循環器内科 科長 上田恭敬 先生
出席者数 14 名
共 催 アステラス製薬株式会社
情報提供 ヒト抗 PCSK9 モノクローナル抗体製剤
[レパサー皮下注 140mg]について
担 当 富永良子

動脈硬化性疾患

動脈硬化の起こる場所は脳血管、心臓血管、大動脈、末梢動脈だが、最近では大動脈のプラークが飛散し、脳や末梢血管で起こす閉塞が注目されている。

PROSPECT 試験において、PCI 後の患者のうち 20.4%が再発したが、そのうち半分は責任病変、半分は非責任病変によるものだった。日本人の死因は、脳梗塞まで含めると動脈硬化性疾患は 1 位の癌に匹敵する。

AMI 患者数は約 69,000 人／年、治療の進歩により院内死亡は 6,000 人／年と減少傾向だが、2016 年度の診療報酬改定により、AMI を CCU で診療しにくい体制となっており、治療成績にどう影響するか懸念されるところである。

一方、AMI による全死亡は 40,000 人であり、搬送前死亡が多く、AMI を発症すると 4 割が死亡するという結果だった。

血管内プラーク

血管内視鏡では、黄色プラークや破綻したプラークが確認できる。

黄色プラークが多いと、AMI の発症率が高く、CKD 患者には多くの不安定プラークがあることも確認されている。

カテーテル治療において、BMS (ベアメタルステント)留置後白色新生内膜が 3 ヶ月後には確認できるが、長期間経つと再び動脈硬化を起こす。

DES (薬剤溶出ステント)留置後血管内にはプラークは残ったまま、再狭窄は起こさないが 1 年後には黄色プラークとなる。5 年後まで見ると BMS の方が予後は良い。

DESNOTE Study では、ステント留置後患者において、白色プラーク群と黄色プラーク群を比較すると、黄色プラーク群にイベントが多いことが確認された。

すなわち、黄色プラークをなくすことができれば、次のイベントは抑制できる。

この Study の多変量解析において、LDL をより低下させた方がイベントを低下できることが確認された。

TWINS study では、スタチンでプラーク退縮が認められることが確認された。

スタチン投与後、まずプラークの色調が黄色から白色へ変化し、その後退縮する。

すなわちスタチン投与により、まず線維性被膜が厚くなり、時間の経過と共にプラークが退縮していく。

コレステロールの管理

平均 TC は欧米では次第に低下、日本では次第に上昇している。

二次予防では LDL100 未満とされているが、達成できているのは 6 割程度との報告がある。スタチンは増量しても効果には限りがあり、イベントを減らすことは確かだが、残存リスクがある。他の因子をコントロールしてもさらにリスクが残る場合、LDL をより強力に低下させる意義があると考ええる。

IMPROVE-IT 試験により、スタチンとエゼチミブ併用によりイベントを減少させることが確認でき、さらに LDL 値 50 程度までの安全性が確認された。

スタチンは LDL 受容体を減少させるとともに、同じ転写因子により PCSK9 を増加させる。LOF PCSK9 も報告されており、LDL が低いとともに CAD の頻度も低いとの報告があり、

PCSK9 が治療介入の手段として注目された。

STOP MI キャンペーン

日本循環器学会と共に打ち出しているキャンペーン

複数の疫学調査により、MI の前に前兆ある人が 50% 程度だということが分かっている
そこで、MI の前兆を知ってもらうこと、診断は困難であるがその時点で受診することにより発症を抑えるのが目的である。

平成 29 年 1 月度学術講演会のお知らせ

平成 29 年 1 月の浪速区医師会講演会は おやすみです。

次回多数の先生方の参加をお待ちいたします。

本勉強会は、大阪府医師会生涯研修システムの対象となっておりますので、生涯教育チケットの持参をお願いいたします。



浪速区医師会 活動の伝言板

平成 29 年 1 月の各業務の出務予定は次のとおりです。ご協力のほどよろしく願いいたします。

3歳児健康診査

●保健福祉センター

1 月 26 日(木)午後 1 時 40 分～ 3 時 30 分

小児科 倭 和美

眼 科 澤井 貞子

耳鼻科 大野 聡史

B C G 接 種

●保健福祉センター

1 月 19 日(木) 午後 2 時～ 3 時 30 分

工藤俊次郎・池田 良彦

急病診療所出務

●中央急病診療所

1 月 3 日(火) 深夜 22:00 ～ 30:00

小島 弘久

1 月 19 日(木) 深夜 22:00 ～ 30:00

徳田 好勇

●今里休日急病診療所

1 月 15 日(日) 10:00 ～ 17:00

有田 繁広・山崎 雅裕



新年互礼会のご案内

平成 29 年の新しい年を迎えるに当たり、恒例の新年互礼会を開催することといたしました。

つきましては、ご多忙のところ誠に恐縮ですが、万障お繰り合わせの上、是非ご出席下さいますようご案内いたします。

日時 平成 28 年 1 月 21 日〈土〉午後 6 時～
場所 スイスホテル南海大阪
35 階「シェルブルー」
TEL 06 - 6646 - 1111

※出欠についてのお返事は、医師会までご連絡をお願いいたします。

年末年始休館日のお知らせ

平素は本事業にご協力いただきありがとうございます。ごぞいます。

さて、今冬も下記のとおり、浪速区医師会の業務を休止いたしますので、よろしくお願いいたします。

記

12 月 29 日〈木〉～平成 29 年 1 月 4 日〈水〉

※ 28 日〈水〉午後 4 時 仕事納め

緊急連絡は事務所にご連絡（☎ 6633-3818）下さい。転送電話となっております。

いしんの
無担保型

ローンのご案内

教育ローン

お子様の教育資金に。

大学・専門学校。予備校等の入学金、授業料、下宿代、仕送り資金等にご利用頂けます。

変動金利

年 **2.475** %

期間

20 年以内

限度額

3,000 万円

融資お問い合わせ専用番号
(平日9:00～17:00/土日祝休)

☎ **0120-947-604**

オートローン

自家用車・往診車・患者送迎用車の購入に。

大阪府医師自動車連盟の会員様は
表示金利より更に0.2%優遇いたします！

固定金利

年 **1.6** %

期間

7 年以内

限度額

1,000 万円

●表示金利は平成28年11月にお借入れ頂く場合の適用金利です。お申込み時ではなく、実際にお借入れ頂く日の金利が適用されます。●融資には審査がございます。審査結果によっては、ご希望に添えない場合がございます。●ローンには連帯保証人・手数料が必要な場合がございます。●この他にも各種ローンをご用意しております。詳しくは、上記の「融資お問い合わせ専用番号」まで。



大阪府医師会保健医療センター1階
大阪府医師信用組合

いしんのホームページ
<http://www.odcu.co.jp>

近江牛&松茸すき焼き食べ放題・・・伊賀上野／信楽の旅

厚生福利担当理事 川田 信哉

11 月 20 日(日) 恒例のレクリエーション、今年は標記日帰り旅行ということで、8 時 15 分には区医師会館前に全員集合し、バスに乗り込みました。13 家族 36 人と盛況で小さいお子さんも多く、にぎやかに出発。バスは一路、伊賀上野へ。

上野公園内にある「伊賀流忍者博物館」で忍者屋敷のからくりの説明を受けた後、忍術実演ショーの始まり始まり。刀、鎌、忍具など本物の武器を使っの演技、吹き矢、手裏剣投げや爆薬の破裂音も混じえての鬼気迫る実演にお子ちゃまだけでなく大人もタイの団体さんも大興奮の一時でした。その後、忍術体験館、忍者伝承館を見学。松尾芭蕉の俳聖殿前の紅葉を愛でつつ、上野公園の秋を楽しみました。

お腹の空いたところで、バスは信楽の一水庵に向かいます。「近江牛と松茸すき焼き食

べ放題 90 分コース」どんな肉と松茸が出てくるのかと思いきや、結構旨みのある軟らかい肉(近江牛)と意外にみずみずしい松茸(外国産)で、松茸土瓶蒸しと松茸ごはんも登場する豪華さで大満足。割下を入れ過ぎたため最後は相当な辛さとなり、食べ続けることが出来なくなったのが残念でした。店を出てすぐの信楽駅前に鎮座している大狸はサンタ仕様になっていました。

帰りのバス内では、家族ごとにスピーチしてもらいましたが、皆様それぞれに楽しんでいただけたようで何より。福永真夕ちゃんと真大くんが自分の意見をしっかり言えていたのに感心しました。

「伊賀の里モクモク手作りファーム」に立ち寄った後、帰り途も順調で 18 時過ぎには帰阪し、解散となりました。曇天でしたが、風も無く暖かい秋の一日でした。







あとがき

竹中 秀裕

◆2016年もまもなく終わろうとしています。毎年1年間の世相を漢字1文字で表す恒例の行事がありますが、昨年は「安」だったと記憶しています。「来年こそ安心した安全な社会を」という願いがこめられたと思いますが、「今年の漢字」は何が選ばれるのでしょうか。

浪速区医師会では、今年澤井新執行部がスタートし、精力的に活動を開始してくれています。「A ケアカードシステム」も11月から本格的に始まり、患者登録が進んでいます。医師会も1年間を漢字1文字で表すとすれば、何になるのでしょうか。「新」とか「A」とか、1度募集しては如何でしょう。

◆巻頭言で久保田先生が、未来医療の夢を語ってくれています。先生の ICT 関連の知識や人脈の豊富さには頭が下がります。小生も「ブルーカード」、「i Project」、「A ケアカード」と付合ってきましたが、小生のようなアナログ人間には、付いて行くのがやっとなという感もあります。何よりも横文字の略語が苦手、AI、ICT、MRT、IOT 等々、十分に理解出来ておりません。今後、医療 AI やデジタル化がどんどん進んで、医師会活動にも取り入れられると思いますが、FAX 位しか活用出来ないアナログ人間も、置いてきぼりにしないよう配慮願えれば幸いです。

◆11月20日、恒例の医師会レクリエーション、日帰りバス旅行が行われました。今回は、「近江牛すき焼き食べ放題」とのことで、信楽、伊賀上野方面へ行ってきました。詳細は別に記載されると思いますが、総勢36名、若い先生方とご家族、子供さんが沢山参加して下さいました。子供の頃の医師会旅行で親しくなり、現在も共に医師会活動を続けている先生も多いと聞きました。今後もこのような機会を利用し、もっと多く参加して

頂き親交の場を拡げていただければと思います。当日は雨にも降られず、楽しい1日でした。旅行を企画、立案し、お世話頂いた川田理事に感謝申し上げます。

◆今年も残りわずかになりましたが、来年在明のよい年でありませう、また会員皆様のご無事な越年を祈念して本年最後のあとがきを終えさせていただきます。



目次	ページ
巻頭言	
未来医療に向けて	久保田泰弘 1
理事会報告(11月開催)	4
11月度学術報告	富永 良子 7
平成29年1月度学術講演会のお知らせ	8
浪速区医師会活動の伝言板	8
新年互礼会のお知らせ	9
年末年始休館のお知らせ	9
レクリエーション報告	川田 信哉 10
あとがき	12

【区医だより】

発行者 澤井貞子
編集者 中村泰久 山田郁子
印刷所 株式会社 サ ビ